

天海を開山に家光が創建した関東の比叡山 普段非公開の綱吉、吉宗、家定、篤姫宝塔、結界の 第2霊廟を特別拝観

主要行程

- 10時00分 JR上野駅公園口集合
元寛永寺根本中堂、本坊、鳥取池田藩上屋敷表門
国立子ども図書館、吉田屋資料館、寛永寺境内（昼食）
- 13時40分 寛永寺根本中堂前集合、寛永寺第2霊廟特別拝観
- 15時30分 寛永寺第1霊廟前、3代将軍家光霊廟跡
- 16時30分 鶯谷駅近い新坂解散、上野駅まで歩く



はじめに地名の由来から

- ①上野=上にある台地。一説は上野から京都への帰途、しばらく滞在した官人の小野たかむらに由来、また江戸はじめ邸地を拝領した藤堂高虎の本拠伊賀上野に似るともいう。忍ヶ岡とも
- ②不忍池=上野台地と本郷台地に挟まれた谷地で古くは海。忍ヶ岡に対して不忍池といった
- ③上野桜木=桜木の多い街
- ④鶯谷=元禄時代京都からうぐいすを運ばせて放し名所とした

きょうのみ きょうのみどころ



① 寛永寺根本中堂跡



② 池田藩邸表門



③ 国立子ども図書館



④ 吉田屋資料館



⑤ 現在の根本中堂



⑥ 勅額竹



⑦ 家綱霊廟



⑧ 綱吉宝塔
外から撮る

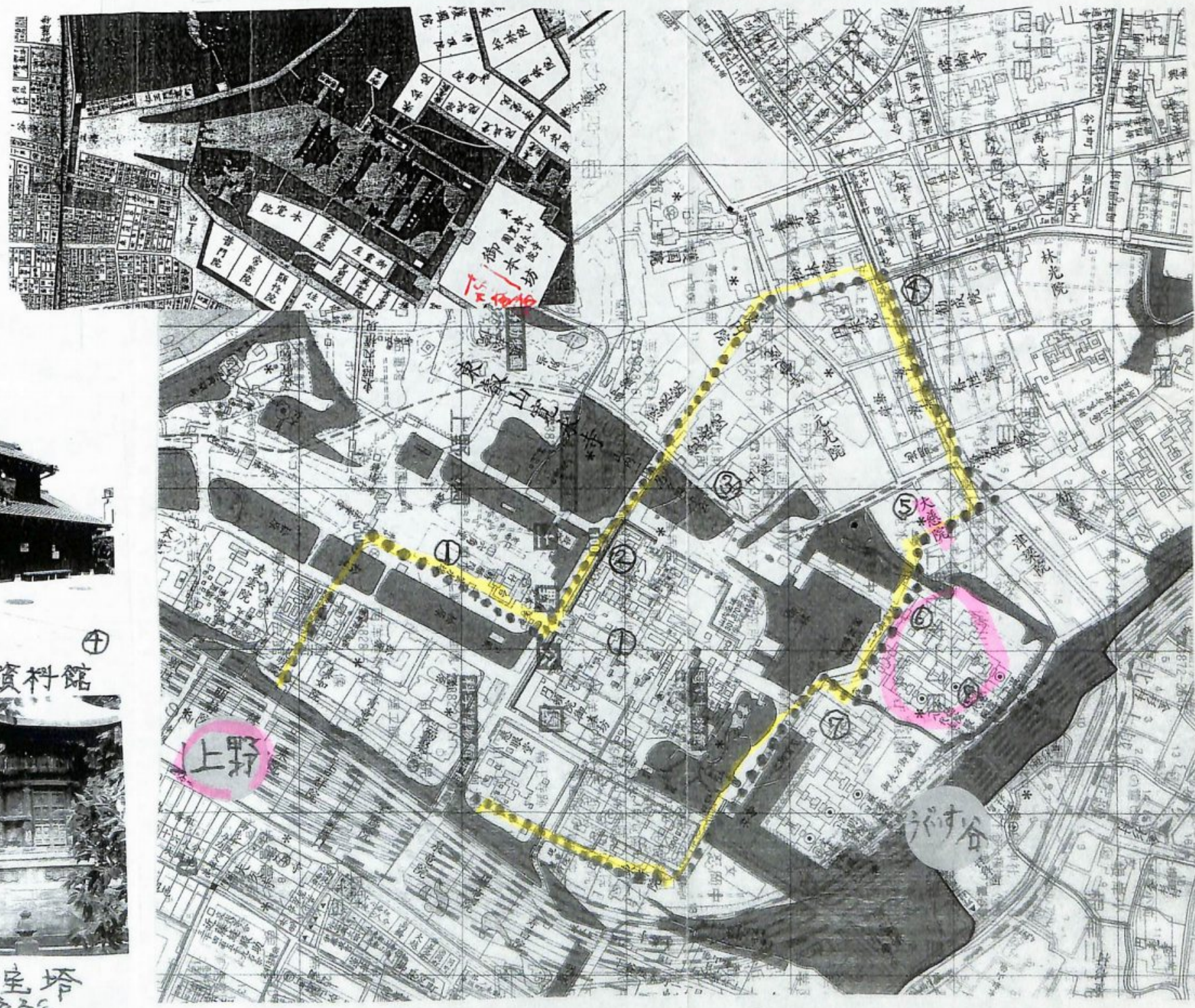
東野山寛永寺「から」



寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。また、寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。

寛永寺の歴史は、寛永寺の開山に始まり、徳川将軍家光の創建による。寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。また、寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。

寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。また、寛永寺の境内には、寛永寺の歴史を伝える多くの文化財が点在しています。



旧因州池田屋敷表門(黒門)

①厳しい格付けと序列

江戸時代の大名は1万石以上をいい、江戸後期以降その数はほぼ270家であった。これらの大名は家格や官位、石高によって厳しく管理された。

*家格による序列は国主(国持ち)、準国主、城主(城持ち)、城主格、無城大名など

②大名家表門の格付け

江戸時代、大名家江戸屋敷、格式の象徴ともいえる屋敷表門はとくに厳格に統制された。

国主	独立型棟門	唐破風両番所付き
10万石以上	長屋門	唐破風両番所付き
5万石以上	長屋門	片流れ屋根両番所
5万石以下	長屋門	片番所

③池田屋敷表門

独立型。屋根大入母屋造り平屋棟門、本瓦葺き、11間?1戸、くぐり²。見どころ=国主表門の格式伝える豪壮な構え、高い屋根、太い柱梁、唐風両番所

④案内看板=旧因州池田屋敷表門(黒門) 重要文化財

この門は、もと因州池田家江戸屋敷の表門で丸の内大名小路(現丸の内3丁目)に立てられていたが、明治25年、芝高輪台の常宮御殿の表門として移築された。のちに東宮御殿の表門として移築され、さらに高松宮家に引き継がれる。表門は昭和29年3月さらにここに移建して修理を加えたものである。創建年代は明らかではないが、形式と手法からみて江戸時代末期のものである。屋根は入母屋造り、門の左右に向かい唐破風造りの番所を備えており、大名屋敷表門としてもっとも格式が高い。昭和26年9月重要文化財に指定。

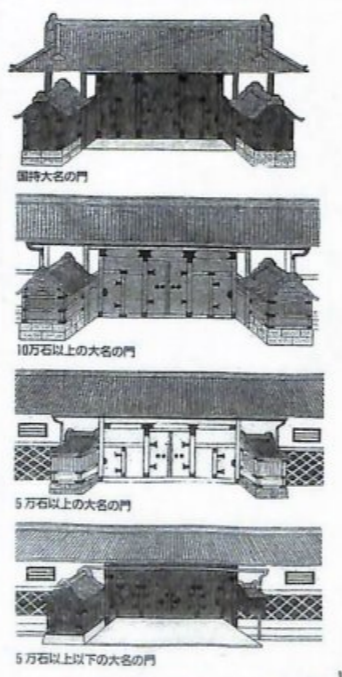
⑤鳥取池田家35万石

家康の次女督姫の婿で、関が原の戦いで活躍した池田輝政は姫路52万石と岡山28万石、淡路6万石を与えられた。督姫を生母とした3男忠雄は淡路を分封され、のち兄の後を受けて岡山28万石に進むが、後代鳥取に移って明治維新に及んだ。

⑥八重洲河岸上屋敷(現在千代田区丸の内3-①~④、国際ビル、新国際ビル、新日石ビル、東京會館、東京商工会議所、富士ビル、新東京ビル)13,576坪

- *慶長9年~元和5年 福島正則(広島49万石)
- *元和5年~明治3年 池田忠雄、光仲、綱清、吉泰、宗康、重寛、治道、斉邦、斉とし、斉訓、慶行、慶栄、慶徳、鳥取藩屯所
- *明治3年~明治19年 兵部省、陸軍省、東京鎮台、陸軍裁判所、監軍本部、教導団、軍法會議
- 明治19年~明治23年 東京鎮台、師団司令部残務部隊
- *明治23年~現在 三菱社所有地

⑦赤門=大納言、黄門=中納言



鳥取藩上屋敷表門 加賀前田藩赤門と表門 大名表門と格式

徳川将軍家15代と寛永寺

1) 鳴かぬなら鳴くまで待とうほととぎす 耐え抜いた初代家康の天下取りレース

- ①徳川 征夷大將軍、太政大臣 源(みなもとの)朝臣 家康
 - *征夷大將軍=えびす(えぞ、未開地)討伐のため派遣された將軍。中世以降は幕府主宰者で軍事(武士)と政權を掌握した。源平交代論。鎮守府將軍、鎮東將軍、征夷將軍
 - *太政大臣=臨時の太政官長官、一種の名譽職
- ②秀吉存命中は5大老筆頭として絶大な信頼を受ける。関東8か国250万石、豊臣政權最大の實力者。臨終に際し秀頼後顧を哀願される。
 - *5大老=徳川家康、前田利家、毛利輝元、上杉景勝、宇喜多秀家
- ③慶長3年(1598)秀吉逝去後急変、露骨に天下取り狙う。ラストチャンスは逃がさない。
- ④慶長5年(1600)関が原合戦勝利。天下人になる。
- ⑤本隊秀忠の遅参で大きな代償。外様の活躍で恩賞増大。西国に潜在的な外敵を抱えることに
- ⑥慶長8年(1603)江戸に幕府を開く。10年隠居、大御所。元和元年大坂の役で豊臣家を滅亡。
- ⑦元和2年(1616)4月17日薨去、75歳。久能山東照宮葬、日光東照宮移葬。神格化。
 - *東照大権現=東に照りおほす権現=衆生を救済するため神が姿を変えて現われること

2) 幕府を確立、巨大江戸城を築いた2代將軍秀忠と3代將軍家光

- ①2代將軍秀忠=慶長10年家康隠居にともない將軍宣下。徳川家の世襲を天下に宣言した。
- ②家康をあがめ、手法を踏襲することで幕府の安泰をはかる。
 - *二元政治、武家諸法度、元和えん武、大名の改易と転封、禁中ならびに公家諸法度
- ③元和9年隠居、大御所として家光を後見、寛永3年没、54歳。芝増上寺に埋葬
- ④3代將軍家光=元和9年將軍宣下。幕府政治を確立。首都江戸城を完成。参勤交代、鎖国令
- ⑤寛永2年天海を開山に寛永寺を創建、慶安4年没48歳。寛永寺で葬儀、日光に移葬。大猷院。

3) 「花の元禄時代」を謳歌した5代將軍綱吉

- ①4代將軍家綱=慶安4年將軍宣下。保科(松平)正之(秀忠の落胤)ら寛永の遺老、下馬將軍延宝8年没、40歳。寛永寺葬、嚴有院。
- ②5代將軍綱吉=延宝8年將軍宣下。天和の治、湯島聖堂、母桂昌院の出世物語とマザコン男、僧隆光と生類あわれみの令、財政悪化、貨幣改鑄、赤穂浪士の討ち入り
 - 宝永6年没、64歳。寛永寺葬、法名常憲院
 - *世界に類をみない悪法=行過ぎた犬や鳥獸の保護政策、違反者を厳しく処分。犬やツバメ殺して死罪、力を殺して島流し、抵触した数十万人を不幸に。犬公方、犬の戸籍、中野犬小屋
- ③6代將軍家宣=宝永6年將軍宣下。生類あわれみの令廃止恩赦8000人、儒教政治、善政も短政。墓所は芝増上寺。
- ④7代將軍家継=正徳2年將軍宣下、4歳で継ぎ8歳で病死。新井白石が補佐。不正・腐敗横行、絵島・生島事件。墓所は芝増上寺。



徳川家康



綱吉が愛用したと伝えられている犬型の浦たん塚。(日光山輪王寺蔵)



綱吉が出した生類の殺生や虐待を禁じた数々の法令を総称して生類憐みの令という。写真は1687年(享保4年)の懸書。(明治大学附属博物館蔵)

動物愛護団体も絶賛!? 真の狙いは慈悲の心

「將軍の行状が通る際、大儀をなすつないでおこなう」といふ「憐」から始まった生類憐みの令。綱吉が死去する1709年(宝永6年)までの四半世紀に、実に27回もの「憐」が出された。綱吉は「大公方」などと愛称され、犬の保護はかりが強調されるが、生類憐みの令は生き物すべてに関わっていた。それを整理してみると以下の通りになる。

- ①生き物を殺すと以下の通りになる。
 - なま - 犬に限らず猫やネズミ、鳥、魚かつには蚊も対象
 - ②生きた鳥や魚の売買の禁止、「憐」を出した鳥や魚の売買は許可された。シジミ、アサリの売買は許可された。
 - ③死んだ魚は放置せず必ず埋める
- ④病気の蔓延
 - 病気の蔓延があった
 - ④病気になると苦しむ
 - 病気がなると苦しむ
- ⑤捨て子
 - このように「生類憐みの令」は、ありとあらゆる生き物の殺生を禁じ、その保護を命じた多岐にわたった。そして、違反した者の死罪や流罪をも許さない極端なものでもあった。
 - 人より動物が大切にされた時代、あが改革が法律で動物をかわいがれと決まると歴史を通じて特異なこの時代は、一方で現代の動物愛護団体からは高い評価を得ている時代でもある。

ついにいざ出された生類憐みの令。本来は動物に限らず、捨て子や病人など生き物すべてを保護するためのものだった。しかし、相次いで出された法令は徐々にエスカレートしていき、やがて罰則者に死罪が適用されるまでになった。人々に動物愛護を求めた法令の精神はやがて失われ、武家も庶民も二千年にわたって言ひつらるることになる。

4) 「享保の改革」進めた「暴れん坊將軍」8代吉宗

- ① 8代將軍吉宗=正徳6年將軍宣下。紀伊家出身。ラッキーな出世人生、享保の改革、幕府財政の再建、儉約令、株仲間の公認、上米制、定免制、日光社参、大岡忠輔 延享2年隠居、大御所、宝暦元年没68歳。寛永寺葬、有徳院
- * ドラマで有名だが百姓には迷惑、米將軍の重税
「暴れん坊將軍」タイトルバックは江戸城ではなく姫路城
- ② 9代將軍家重=延享2年將軍宣下。多病、言語障害が激しく人嫌い。大奥にこもる。政治は老中、側用人が取り仕切る。墓碑は芝増上寺にある。
- ③ 10代將軍家治=宝暦10年將軍宣下。聡明だが田沼意次に政治関与を妨げられ独裁を許す。天明6年没、50歳寛永寺葬、法名凌明院。
- * 田沼時代=商業資本を活用して幕府財政再建をめざすが一方で「賄賂政治」の批判も
- ④ 11代將軍家斉=天明6年將軍宣下。家治に嫡子なく御三卿一ツ橋治済長男から養子。はじめ松平定信を重用して善政をしなが、後半の親政には見るべく所もないいい加減な放漫政治となる。隠居後も政権を手放さず50年以上にもわたって実権を握った。化政文化、江戸っ子と粋、博徒の横行、文学、浮世絵、絵画 天保12年没、69歳。寛永寺第1霊廟葬、文恭院。
- * 寛政の改革=松平定信が主唱、享保の改革を理想とした復古理想主義で農村復興、都市政策強化などにあたった。厳しい統制、儉約政策が庶民の反発を招いて失敗に終わる
- * 大御所時代=理想のない放漫経営。賄賂政治が復活、ぜいたくな生活は財政破綻を招き、治安が混乱した
- * 日本一の子福將軍=側室26人、子女55人、自分勝手な養子政策の押し付け
- ⑤ 12代將軍家慶=天保8年將軍宣下。当初は父家斉の院政、死後の12年から実権を握り水野忠邦を登用して「天保の改革」を進めるが失敗。増上寺葬。

5) 混乱する幕末、幕府崩壊へ 13代家定、篤姫夫妻と15代慶喜

- ① 13代將軍家定=嘉永6年將軍宣下。体が不自由で子が望めず、早くから後継争いが起こった。ペリー黒船来航後、内憂外患の時代、大老に豪腕の井伊直弼が就任する。「日米通商条約」を無断許で調印、反対派を弾圧して「安政の大獄」を布くが「桜田門外の変」で倒れた。安政5年没、35歳。毒殺説もある。寛永寺第2霊廟葬、温恭院。
- ② 正室篤姫=島津斉彬のおじ忠剛のむすめ。斉彬養女として家定3番目の御台所に迎えられる。家定死去後天璋院を号す。江戸開城時、城内徳川家をまとめ退出、14代家茂正室皇女和宮とともに徳川家存続に奔走、16代家達の母代わりを勤める。明治16年没、48歳。寛永寺第2霊廟、夫家定宝塔の傍らに眠る。
- ③ 14代將軍家茂=家定に子供なく紀伊家から養子。安政5年將軍宣下。政局混乱の中、慶応2年第2次長州征伐のため大坂城滞在中病死。芝増上寺葬。
- ④ 15代將軍慶喜=慶応2年家茂に子供なく水戸家から一ツ橋家に養子となっていた慶喜が継承。機先を制した「大政奉還」で引き続き政権担当を狙うが、鳥羽伏見の戦いに敗れて江戸へ逃げ帰る。2月寛永寺大慈院(現寛永寺)に謹慎し、江戸開城の4月15日生家の水戸に退出した。大正2年没77歳。谷中墓地葬。

境内30万坪、比叡山にならった寛永寺

1) 年号を名乗る寺院は国家的事業で創建された=寛永寺と天台宗

- ① 山号(寺名に冠する称号、元は多くの寺が山にあり山名を名乗ったことに由来)=東叡山。京都鬼門を守る比叡山に対して、江戸城の鬼門を守る「東の比叡山」から
- ② 寺号=寛永寺。創建時の年号。年号名を許された寺院は国家的事業として創建されている
- ③ 院号(元は貴族や將軍が立てた寺院の号)=円頓院。天台宗の究極の教え。円満にしてかたよらず、時を経ずして速やかに成仏すること
- ④ 天台宗=法華経を根本經典とした仏教宗派の一つ。宗祖は9世紀はじめの最澄。比叡山延暦寺を本山とし、この地で学んだ法然、親鸞、日蓮らが分流、「日本仏教の母」とされる。戦国後期織田信長の焼き討ちで一時その勢力にかけりが見えたが江戸時代天海の活躍で盛り返した。現在信徒およそ300万人、浄土、日蓮、真言宗に次いでいる。
- ⑤ 徳川家の宗派はかつて浄土宗と天台宗であったが現在は天台宗といえる

2) 3代將軍家光が開基、天海が開山した江戸随一の大寺院

- ① 開基(創立者)=3代將軍家光
- ② 開山(初代住職)=天海(徳川家康、秀忠、家光代寺社行政顧問)
- ③ 天海=江戸初期の天台宗僧、天文5年(1536)会津生まれ、比叡山で天台を学ぶ。徳川家康の知遇を得て内外の政務に参画、川越喜多院、日光山を授かる。家康の死後、権現号の勅許を請い、日光山に改装して輪王寺を建立、その廟の経営に勤めた。寛永元年秀忠の命により上野寛永寺を開山、家光からも信任されて寛永20年(1643)没、107歳となる。
- * 家康の神格化と神号「権現」=古代人間神格化はなく豊臣秀吉の豊国大明神が第1号。崇伝らの大明神を退け天海主張の東照大権現に決まる。
- ④ 寛永2年創建=江戸に天台宗の拠点を作りたいとの天海の思いを知った秀忠が、現在上野公園の地にあった藤堂高虎藩落邸を移転させて寺域を提供。寛永2年家光が現在国立博物館に本坊を、同4年法華堂、多宝塔、東照宮、8年清水観音堂、五重塔を、元禄11年綱吉が寺の中心となる根本中堂を建立、江戸時代を通じ天台宗本山として絶大な権勢を誇った。
- ⑤ 輪王寺宮=3代貫主(住職)に後水尾天皇の第3皇子守澄法親王を迎え、日光山主と天台座主を兼ねた。以後代々の貫主は皇子または天皇の猶子が勤めた。「輪王寺宮」を称し、徳川御三家待遇、日光東照宮、比叡山を統括兼務した。
- ⑥ 將軍家祈禱寺、菩提寺=6將軍が眠る。

3) 上野戦争でほぼ全山を焼失、政府に没収され上野公園となる

- ① 慶応4年、鳥羽伏見の戦い敗れた徳川慶喜は上野寛永寺にこもって朝廷に恭順を示した。慶喜の身辺警護を目的に彰義隊が結成され、江戸に進攻した新政府と激しく反目した。5月15日ついに開戦、寛永寺は砲火を受けてほぼ全山が焼失した。
- ② 新政府は境内地を没収、寛永寺は子院の大慈院に移り本坊を再興した。
- ③ 昭和20年戦災で第1、第2霊廟の主要建造物を焼失、勅額門、宝塔などが残った。



⑧ 吉宗 暴れん坊將軍
⑬ 家定 大河ドラマ 篤姫の夫



篤姫



大政奉還上野の頃。慶喜は「大政奉還」を朝廷に上奏することで、徳川の幕を倒そうとする薩長のちろくみそじいた。(NHK大河ドラマ)

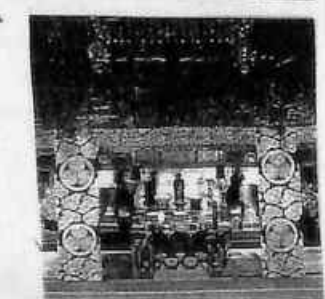
將軍不在の江戸城で 徳川家を取った アマ將軍



天海聖人



家光



根本中堂の内部

立入り 十五代將軍 徳川慶喜公謹慎の間 現在移築

現在、寛永寺には「藤の閣」と呼んでいる二間焼きの部屋がありますが、此処は慶應四年(一八六八)の二月十二日から四月十一日まで、十五代將軍慶喜公が謹慎されたお部屋です。上方から江戸に召喚された公は、一ヶ月の間幕閣の議論を聴取した上で、一念復讐を決意し、寛永寺の五重塔の裏手にある(現在の寛永寺の地)に入られました。公は江戸に召喚されたことを知らせるために、この部屋に「立入り」の御札を掲げました。そのため、江戸城の無血開城の當日(四月十一日)には、この部屋に慶喜公が召喚されたことが江戸へ向かわれたのです。

なお、この部屋はかつて現在の左吉岡の右手に在りましたが、大正三年に現在地に移築されました。その折、あえて田村のみを用いて再建したため、元々十二畳半、十畳の二間焼きであったものが、現在のように十畳、八畳の形になりました。このことは、床の間の柱や建具を見るときよくわかります。

非公開です

寛永寺將軍家第2靈廟を特別参観

1) 寛永寺住職から概要説明と廟所を案内していただきます

①根本中堂で寛永寺の歴史などの解説 (大変わかりやすい説明です)

寛永寺の創建=徳川家康、秀忠、家光3将軍と天海聖人
最盛期の寛永寺=輪王寺宮、祈願寺と菩提寺、寺域と建物
上野戦争=徳川慶喜の謹慎、彰義隊、伽藍焼失、寺域の没収
明治の復興=大慈院、根本中堂の再建、昭和戦災、現在

②廟所の案内説明

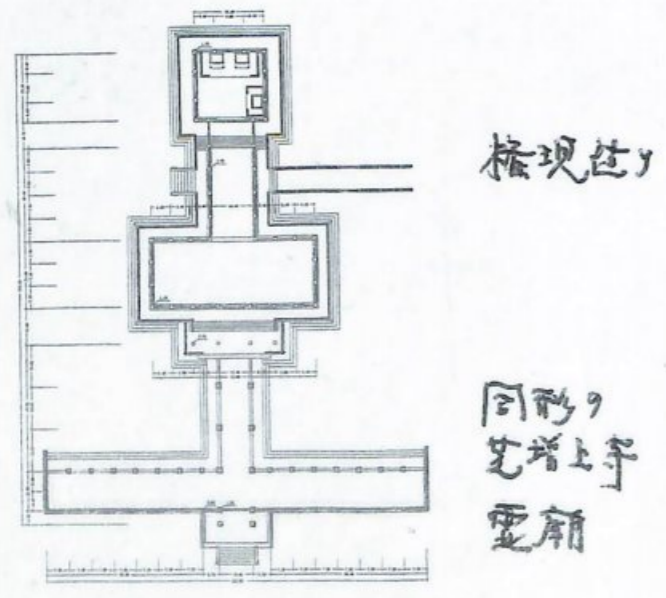
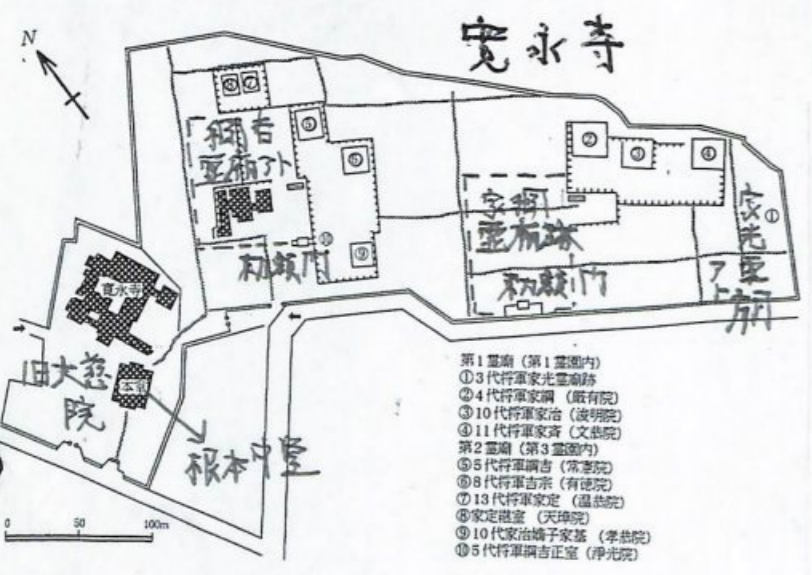
廟所前で概要と注意事項 (結界、室内の気持ち、撮影はできません)
常憲院、有徳院、温恭院、天璋院廟所の順に拝観します

2) 川越喜多院から移築した家光建立の国重要文化財=根本中堂

①当初の根本中堂は元禄11年5代将軍綱吉が建立、現在上野公園噴水の地にあったが慶応4年の彰義隊上野戦争で焼失した。

②現在の根本中堂 (本堂) は明治12年、川越喜多院の本地堂を移築。寛永15年家光の建立で、屋根入母屋造り、正面間口7間3戸、奥行き6間、向背、正面は勅額で「瑠璃殿」、東山天皇の真筆。後出第1、第2靈廟勅額門に勅額はない。

③内部正面厨子には等身大の本尊薬師三尊像が納められているが秘仏、非公開。平安初期造像の国指定重要文化財で左右は日光、月光菩薩、四天王、十二神将など。



3) 普段非公開の歴代將軍家第2靈廟

①靈廟は靈殿と廟所の総称。靈殿は3将軍共用で、本尊、位牌、肖像などを祀る。二天門、勅額門、鐘楼、水盤舎、井戸屋、中門、回廊、拝殿、相の間、本殿、透き塀、仕切り門、装束所からなる。建物の多くは旧国宝であったが昭和20年の東京空襲で焼失、現存は額門と水盤舎のみとなった。

②廟所は將軍ごとに作られ、唐門、拝殿、中門 (鑄抜き門) と墓碑にあたる宝塔があった。廟所も建造物は焼失したが、銅と石造の宝塔と綱吉の鑄抜き門が残った。鑄抜き門は今生との結界でその内側は極楽浄土とされる。門扉に松竹梅や亀甲繋ぎなどの吉祥紋が付けられた。吉宗の「享保の改革」以降の將軍は経費節減のため鑄抜き門は廃止された。

③常憲院殿勅額門 (現存) = 屋根切妻造り、両軒唐破風、青銅瓦ぶき、四脚門。金箔極彩色透かし彫り彫刻、飾り金具、門扉と欄間に將軍家三つ葉葵紋。

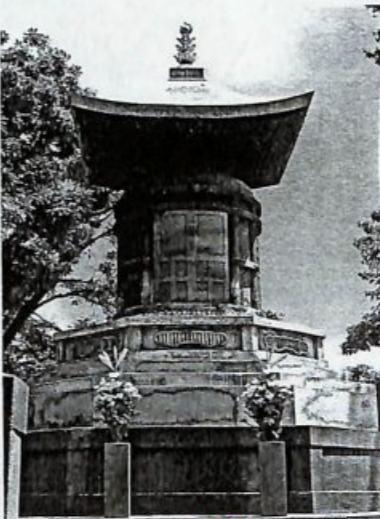
④焼失した靈廟=綱吉の腹心松平貞輝は殉死を許されず全財産を寄付して建造したとされる。豪華絢爛、かがやくばかりの壮麗さであった。写真参照

⑤宝塔=徳川將軍家独特の墓形式、相輪、笠、欠首、たる型の塔身、返り花座、土台石、石垣からなる。綱吉は青銅で外は石造、最大の違いは石造に照りむくりがある。

⑥塔身前面の扉はさん唐戸で小区画に將軍の家紋がみえる。遺体は下の石造墓室で、衣冠束帯の正装、公家座りで木棺に納められ、周囲を木炭や石灰で固めている。

⑦墓所の石垣は当時なく、上野戦争後の荒廃で火災や盗難を危惧した勝海舟が築いた。

⑧一角は將軍墓所にふさわしい聖域として、当時の面影を今日に伝えている。



4) 鶯谷、上野駅への道すじに

- ①第1霊廟、巖有院殿勅額門=4代家綱の正門。綱吉勅額門とともに昭和戦災焼失を免れた。一般墓所一帯は霊殿跡。壮麗な権現造りの大建築が連なったが昭和20年に焼失した。
- ②将軍家第1霊廟前を通過。石垣内に4代家綱、10代家治、11代家斉の宝塔が置かれているが非公開。内部は第2霊廟と同じ構造になっている。
*家綱の宝塔は昨年春までは正面から遠望できたが、東日本大震災で周辺石とうろうが倒壊したため立ち入り禁止となっている
- ③大猷院殿霊廟跡=開基の3代家光は慶安4年逝去。葬儀は寛永寺で執り行われ、この地に霊廟が建立されたが、遺言により1年後日光に改葬された。豪華壮麗な大猷院殿霊堂はその後も供養所霊殿として享保年間の火災焼失まで使用された。
- ④家光殉死者の墓(寛永寺子院現龍院墓所)=家光がなくなった時3人の大名と1人の旗本が殉死した。殉死は当時美德であったが、厚遇をえた松平信綱が後追いせず引き続き老中を担当したことで陰口を叩かれた。これを機に禁止令が出された。岩槻9万石阿部重次、佐倉11万石堀田正盛、鹿沼1万石内田正信とその藩主にも殉じた家臣らが眠る。
- ⑤両大師開山堂=慈眼大師天海と天海が尊崇した慈恵大師良源の2大師を祀る。正保2年創建だが現在の本堂は平成5年と新しい。厄除け大師として知られ青銅とうろう、井戸などがある。
- ⑥寛永寺旧本坊表門=本坊は寛永2年品川にあった将軍家別殿を移築したもので現在国立博物館の地に置かれた。山主の住居で当初は本堂も兼ねた。上野戦争で本坊は焼失したが表門は被弾しながらも残り、昭和12年両大師の一画に移築された。現在も官軍攻撃による弾痕が数多く残り戦争の激しさを忍ばせている。現在は工事中のため見学できません。
- ⑦次回は11月14日バス研修です。遅刻のないよう参集ください。

以上

東叡山焼失略圖
慶應及五月十五日公時、夜半終、彰義隊、但町茶合朝時、始、大衆入城

合戦朝時、八時頃終、報岸、御隠殿ナシ、彰義隊、口焼場町

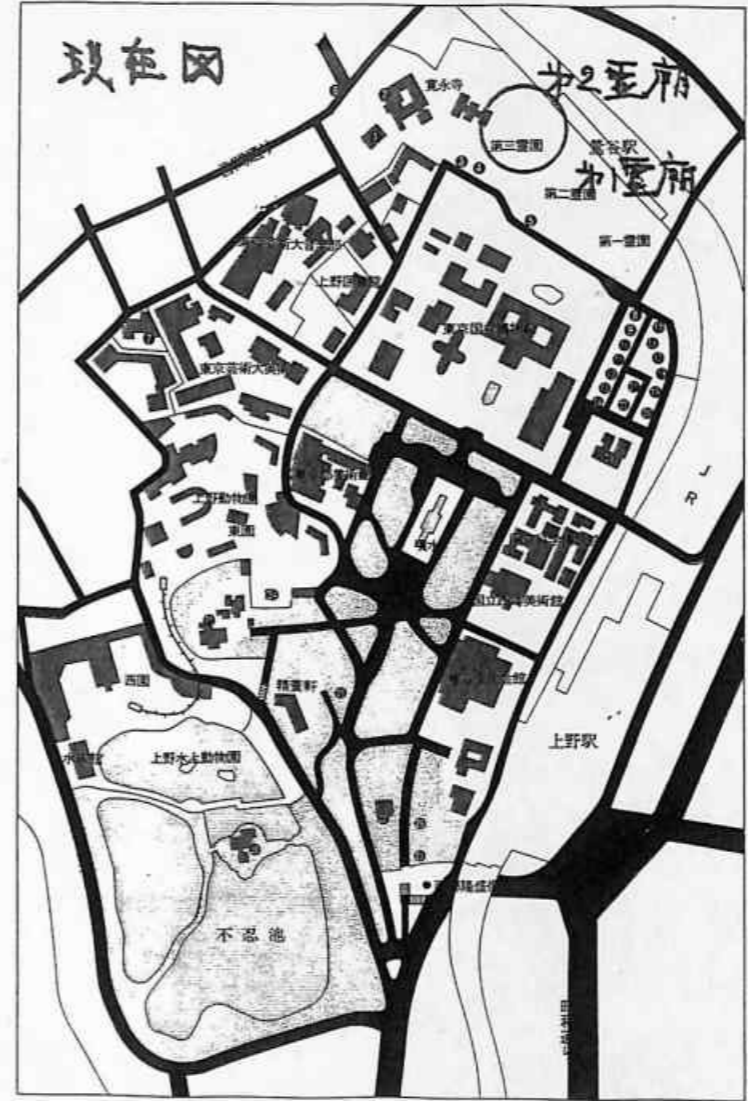
彰義隊 1,500名以内、焼死266名

長州、久米、佐土、大村

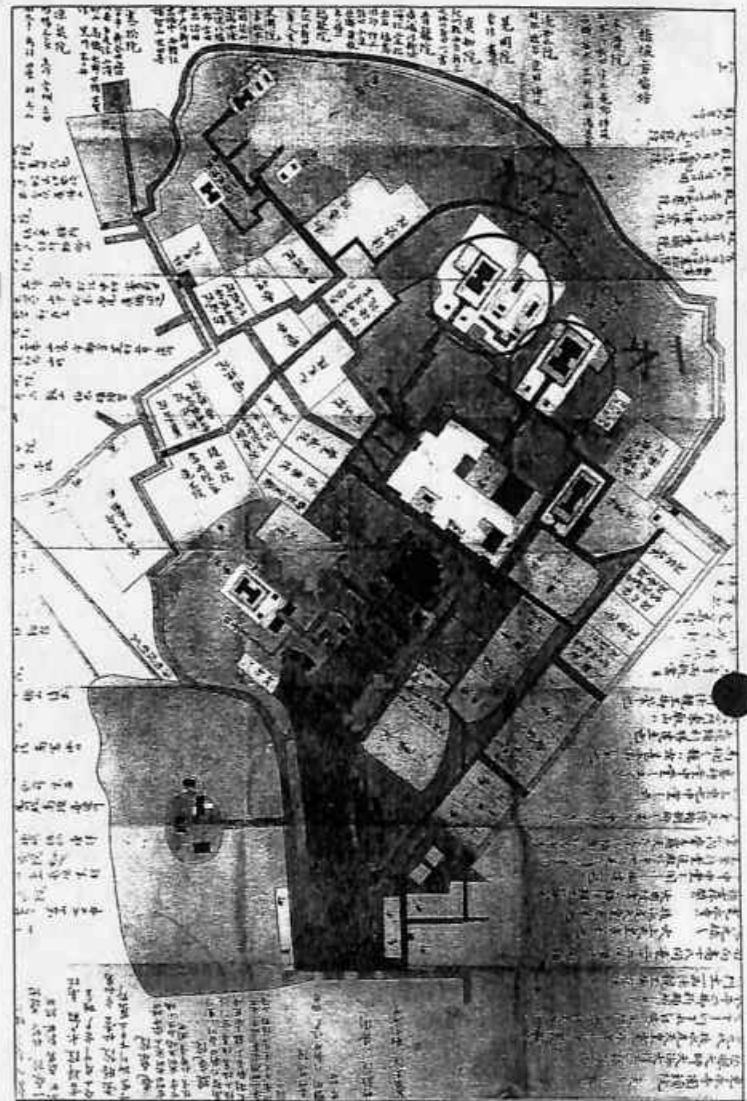
官軍21藩12000名以内

アームストロング砲2門 肥前 大村

主丸



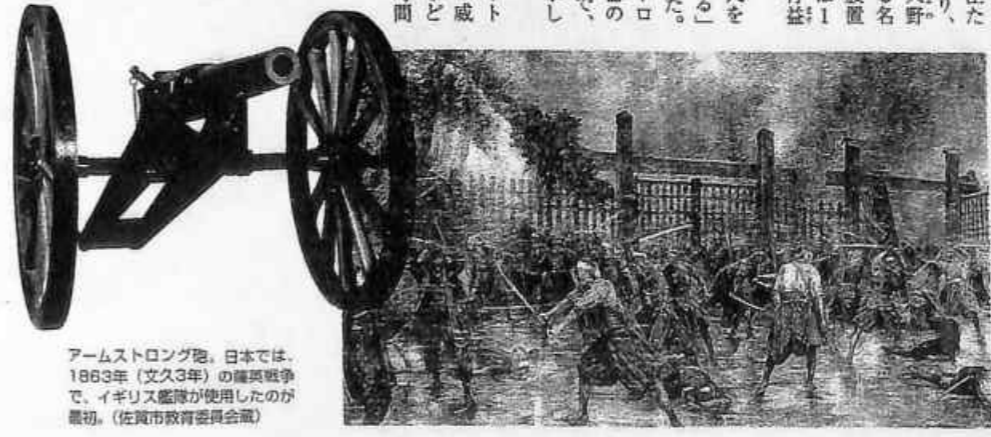
1 根木中堂	6 浄心院	11 吉祥院	16 福院	21 善性院	26 大仏師
2 慶喜連供の間	7 護国院(大黒天)	12 泉電院	17 本覚院	22 善覚院	27 清水親善堂
3 常楽院勅額門	8 真如院	13 神院	18 光光院	23 輪王寺(両大師)	28 天海僧正毛髮塔
4 常楽院水盤舎	9 本徳院	14 現電院	19 東漸院	24 五重塔	29 彰義隊の墓
5 巖有院勅額門	10 林光院	15 光明院	20 覚成院	25 東照宮	30 井ノ堂



10代家治の39 寛永寺境内日



天野八郎肖像。彰義隊の副頭取だが、事実上のリーダーだった。



アームストロング砲。日本では、1863年(文久3年)の薩長戦争で、イギリス艦隊が使用したのが最初。(佐賀市教育委員会)

新政府軍への恭順に納得しない幕臣たちの中に、上野寛永寺山内に集まり、「彰義隊」と名乗る勢力があった。天野八郎をリーダーとし、慶喜を守護する名目で結成されたこの一団が、やがて放置できない勢力に膨らむと、新政府軍は1868年(慶応4年)5月15日、大村益次郎の指揮下に攻撃を開始した。倒幕派の益次郎は、彰義隊を「戦火を江戸城におよぼすことなげん滅す」とと約したが、その通り1日で壊滅した。その際、彼が使用したのがアームストロング砲。この砲撃の威力は当時の兵器の中でもスバ抜けており、益次郎は「これで、現在の東京、本郷から上野の山を砲撃したという。」

アームストロング砲は約4キロメートルの射程があり命中精度も抜群。その威力と、来るはずの援軍が来なかったなどの不利な状況で、彰義隊はわずか11時間で壊滅したのだ。



上野の山で大暴れ! 最強アームストロング砲

上野戦争で指揮をとった益次郎は、寛永寺に立てこもった旧幕府勢力を討滅した。左は彰義隊の旗。上野戦争の様子を描かれている。(円通寺蔵)

1868年(慶応4年)、勝海舟と西郷隆盛の取り決めにより、新政府軍が江戸城に入城した。しかし、江戸は開城したばかりの混乱で、各地で新政府軍に対する内乱が相次ぐ。旧幕府お膝元の江戸では、徳川慶喜の復権を望む彰義隊が上野戦争をしかけるが、1日で壊滅。東北では、奥羽政権を擁護した奥羽越前同盟軍がささり降伏し、かの松平容保の居城、会津若松城も落城の末路をたどる。

(参考)

[黒田清輝の略歴]

1866年(慶応2年)「きよてると」読むが、画名は「せいき」と読む鹿児島出身で薩摩藩士黒田清兼の子として生まれ、後に伯父の子爵黒田清綱の養子となる。福岡藩主黒田家の遠縁にあたる。1872年(明治5年)小学校卒業後上京し漢学塾 二松学舎に通う。この頃細田季治に鉛筆画・水彩画を学ぶ。東京外国語学校を経て1884~1893年(明治17~26年)まで渡仏。法律を学ぶ目的であったが、パリで画家の山本芳翠や藤雅三等に出会い1886年画家に転向を決意しラファエル・コランを師事。

帰朝後は洋画研究所天心道場を開設し、印象派の影響を取り入れた外光派と呼ばれる作風を確立。1896年には東京美術学校の西洋画科の発足に際し教員となりその後教授に就任した。1917年養父の死去により子爵を襲爵し、1920年には互選により貴族院議員に就任し亡くなるまで務めた。

4 東京芸術大学

前身は、旧制「東京美術学校」と「東京音楽学校」。1949年(昭和24年)統合され「東京芸術大学」が設立された。美術学部と音楽学部があり、キャンパスは上野、取手、横浜、千住に分かれている。

(参考)

[東京芸術大学の卒業生]

- ・加山又造 ・千住 博 ・東山魁夷 ・平山郁夫 ・横山大観
- ・絹谷幸三 ・小磯良平 ・藤田嗣治 ・岡部冬彦
- ・岸 洋子 ・池辺晋一郎 ・三枝成彰 ・千住 明 ・黛 敏郎
- ・芥川也寸志 ・滝廉太郎 ・芦野 宏 ・藤山一郎 ・大賀興雄 等々

5 下町風俗資料館付設展示場(吉田屋酒店)

旧谷中茶屋町(現在の谷中6丁目)で営業をしていた吉田屋酒店は、江戸時代からの老舗であったが、1986年(昭和61年)廃業するにあたり、台東区によって翌年に現在の地に移築され、下町風俗資料館 付設展示場として公開されている。

一階店舗と二階、ならびに道具と文書類が1989年(平成元年)に台東区の有形民族文化財に指定されている。**人見ハリ**

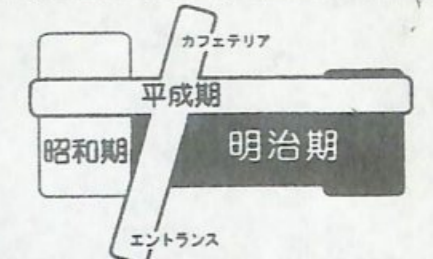
建物は1910年(明治43年)に建てられ昭和10年には一部改装されているが、江戸から明治にかけての商家の建築様式を伝えるもので、今では貴重な存在となっている。

規模 建築面積 108.68㎡(約33坪)
延床面積 129.08㎡(約39坪)

以 上

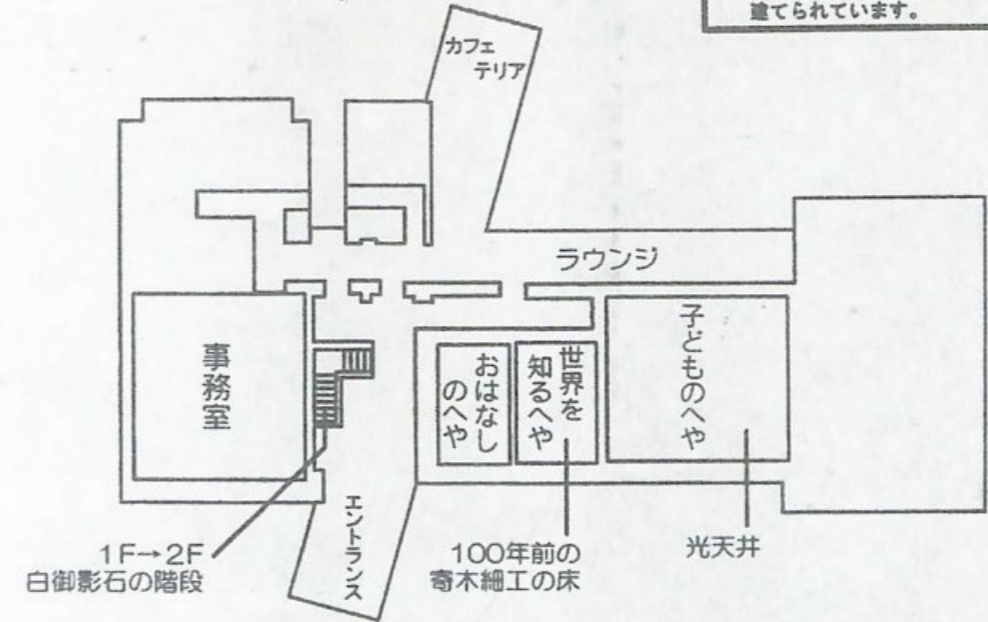
国際子ども図書館

建物のみどころ

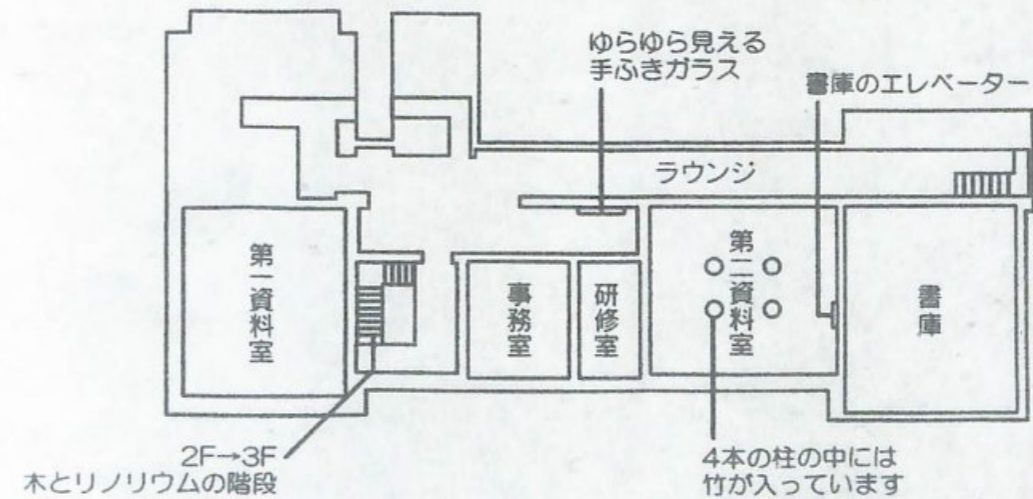


この建物は、明治、昭和、平成と3つの時代に建てられています。

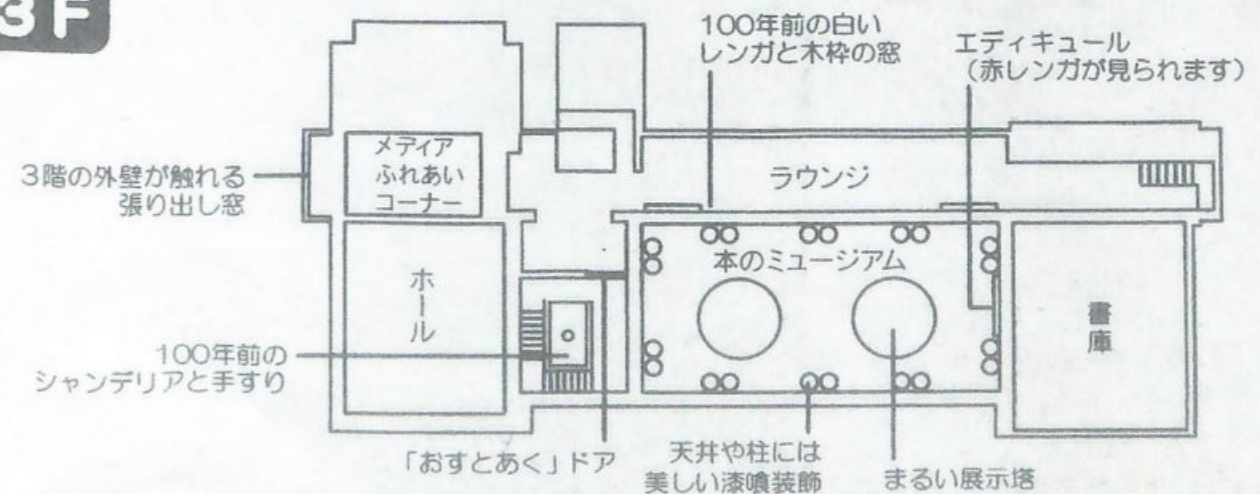
1F



2F



3F



《東叡山 寛永寺 周辺の見所》

上野公園は 1876 年（明治 9 年）に明治政府により寛永寺の寺領を没収して造られたが、それ以前は寛永寺の寺領として管理され 32 の堂塔伽藍や 36 もの子院があった。その公園の中には気付かずに通り過ぎてしまいそうな、また知っていても忘れられてしまいそうな場所があります。

今回、上野寛永寺を訪ねるのを機に、通り道に見られる新旧の施設をご案内します。

1 国際子ども図書館

この図書館は 1897 年（明治 30 年）創立の帝国図書館を淵源としており、施設は久留正道・真水英夫の設計により 1906 年（明治 39 年）に上野公園内に建設された。1949 年（昭和 24 年）国立国会図書館に統合されて今日まで運営されている。

子ども図書館の母体となった帝国図書館は、1900 年（明治 33 年）3 月時点の完成予定図でみると、書籍収蔵 120 万冊、閲覧室 730 席、述べ床面積は約 20,000 m²（約 6,060 坪）で、地下 1 階、地上 3 階、中庭を囲む『ロ』の字形の平面をもち、2 階に至る大階段を備えた堂々たる古典主義様式の建築物になるはずであった。

第一期工事は、当初の完成予定図の 1/3、現存の規模により鉄骨補強煉瓦造りで着工した。しかし工事の進捗中に予算面で厳しくなり、やむなく規模を大幅に縮小せざるを得なくなったのだ。

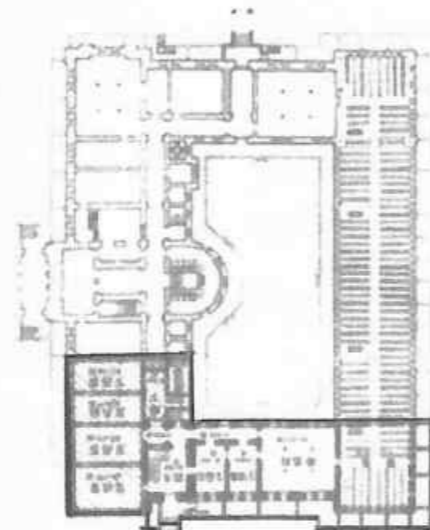
明治 39 年 3 月に竣工し、帝国図書館は開館された。

現在の正面玄関は、当初計画図では正面右側（東側面）の部分であった。現在の正面に向かい右側約 3/4 はルネサンス様式を取り入れた当初計画の石積み
の明治期洋風建築である。

第一期工事の未完成部分は 23 年後の 1929 年（昭和 4 年）完工された。昭和 4 年の完工部分は、正面左側の 1/4 で、その工事は明治期のものとは異なり、外観は明治期の姿を踏襲しているが、鉄筋コンクリート造りで石は薄い人造石を煉瓦部分はタイルを張り付けたものとなっている。



国際子ども図書館



帝国図書館完成予想図

縮小されて建てられたのは、当初設計の南側の地下、地上は大階段より北側だけとなった。規模は小さくなったが、建物の中には明治を感じさせる漆喰の天井や柱には鏝絵が、また寄木細工を活かした床の装飾、階段には吹き抜けに明治期のシャンデリアと手すり、扉には「おす登あく」と記されたドアが、さらに手吹き硝子の表面は「ゆらゆら」と揺らぎ、まるで明治にタイムスリップした様な気分になる。

2000 年（平成 12 年）には安藤忠雄の設計により、エントランス、ラウンジ、カフェテリア部分が増築・改装され、生まれ変わって「国際子ども図書館」としてスタートした。この建物は明治後期の技術と昭和・平成の近代技術とが組み合わせられた歴史的価値のある建物で、東京都選定歴史的建造物に指定されている。

2 京成電鉄博物館動物園駅

この駅は、1933 年（昭和 8 年）12 月に開業し、1977 年（平成 9 年）3 月まで利用されていた。竣工当時は、帝室博物館の敷地内にあったため、この豪華な駅舎のデザインの最終決定は御前会議によってなされたといわれている。

しかし、京成上野駅から近く、またホームが短く 4 両編成の車両しか停車できないことから乗降客は減少し、建造物の老朽化もあって営業休止となった。



京成電鉄博物館動物園駅

3 黒田記念館（東京文化財研究所）

洋画家黒田清輝（1866 年（慶應 2 年）～1924 年（大正 13 年））を記念するもので、管轄は東京国立博物館である。

黒田記念館は、黒田清輝が没する際に遺産の一部を美術の奨励事業に役立てるよう遺言したのをうけて 1928 年（昭和 3 年）に竣工したものだ。

館内には遺作を展示しているが、1930 年（昭和 5 年）学術的調査研究と研究資料の収集を目的として東京文化財研究所の前身である美術研究所が設立され、以降、長らく同居状態で業務を行ってきたが、2000 年（平成 12 年）研究所が新しい施設へ移転したのを機に、昭和初期の美術館建築を創建当初の姿に復して 2001 年（平成 13 年）黒田記念館としてリニューアルオープンした。

展示作品は黒田清輝の油彩画 126 点デッサン画 170 点その他写生帖、書簡などを所蔵している。

平成 24 年 4 月に耐震工事に掛かり休館中で、開場は未定とのこと。



黒田記念館

上野の山は江戸のパルテノン



清水堂寛永8年(1631)の建築
京都の清水寺に倣い舞台造り
不忍池は琵琶湖、弁天島は竹生島
清水堂の砲弾は官軍が撃ち込んだ
砲弾

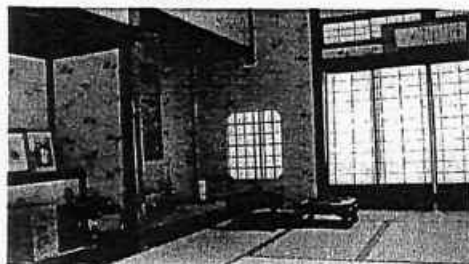
上野の山は江戸城から見て鬼門の方角 天海僧正は関東の天台宗総本山を建てることを秀忠に進言 寛永寺は比叡山延暦寺に倣い東叡山寛永寺と名付ける。
寛永寺五重塔は寛永16年(1639)



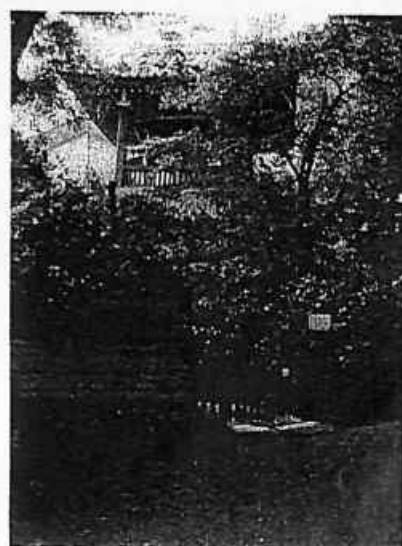
当初上野の山には藤堂高虎の屋敷があり、私邸内に寛永3年(1626)東照宮と寒松院を建てた。寒松院には茶室閑閑亭を建てその寄り付きが動物園内に現存する



また芝の増上寺と共に徳川家の菩提寺となる 勅額門宝永6年(1709) 穴稲荷も珍しい 江戸に5カ所あった時の鐘の一つも活躍。



寛永寺の大慈院には慶応4年(1868)2月から4月まで徳川慶喜侯が江戸城の無血開城を見届けるまで蟄居していた葵の間が保存されている。



上野公園は建築公苑だ 上野公園の誕生と近代建築人は地の利を読み町を築く その前提の3人



上野の開発者 天海僧正
上野の台地は江戸城の鬼門封じ。
関東の天台宗総本山を建てることを秀忠に進言。
不忍池は比叡山と琵琶湖と延暦寺の関係になぞらえ、東叡山寛永寺。
上野の桜は天海僧正の桜好き。
寛永寺の「葵の間」は江戸から明治への転換の象徴的存在。



ボードワンの功績

明治維新で上野の山は戊辰戦争で焦土と化す。
文部省、兵部省の病院の建設計画、オランダ人軍医ボードワンは病院よりもむしろ公園地とすべきことを明治政府に提言。
明治政府は明治6年(1873)1月15日、公園に関する太政官布達を出し、東京に上野、浅草、増上寺、富岡八幡、飛鳥山の五箇所の公園。

町田久成の文化ゾーン構想

明治5年(1872)、町田はオーストリアの万国博覧会の出品準備で田中芳男と上野公園の文化ゾーン構想を提案。
明治9年(1876)、教育博物館が今の芸大の場所に建つ。
明治13年(1880)、帝室博物館(コンドル設計アジアを意識したのかサラセン風)が建つ。
町田久成は初代館長。博物館、動物園、美術館などは町田久成の構想による。音楽はまた別。



東照宮 (正保3年1646年・東照宮の宮号を授けられる) H24 10 14.
家康を主祭神として祀った。合祀している社は全門に500社以上あるという。

徳川家康は元和2年(1616年)旧7月4日駿府城で亡くなるが、その遺言は「遺体は久能山に納め、一周忌が過ぎたら、日光山に小さな堂を建て、勧請・神として奉ること云々」。これにより、久能山に葬られ、同年中に久能山東照宮が完成、翌元和3年日光に改葬された。藤堂高虎が作事奉行となり、日光東照宮社殿4月完成。

上野東照宮

藤堂高虎(1556~1630)は家康死去の際には天海僧正(1536~1643)とともにその枕元に侍ることを許され、その遺言を実行。心回忌にあわせ、寛永4年(1627年)、高虎自邸内に東照宮建立。(案内書には寛永寺境内とあるが)その後家光により慶安4年(1651年)に大改築、現在に至っている。

(1) 大石馬居

寛永10年(1633年)酒井忠直(1572~1636)が奉納。

* 土井利勝とともに秀忠の腹心、上野厩橋(新橋)城主 12万石余。
翌11年、家光上洛中に西の丸焼け、その責を問われる。

(2) お化け灯笼

寛永8年(1631) 佐久間勝之(1568~1634)奉納。

* 常陸北条、信濃・長沼藩(初代) 1万8千石。

高さ6.8mもある。勝之は他に京都・南禅寺、名古屋熱田神宮に奉納して坊に「日本三大灯笼」というとか。

(この東照宮への寄進は10万石以上に限られていたが勝之に奉納したため、勝之は切腹させられたとの説あり。???)

(3) 銅灯笼 ... 全48基

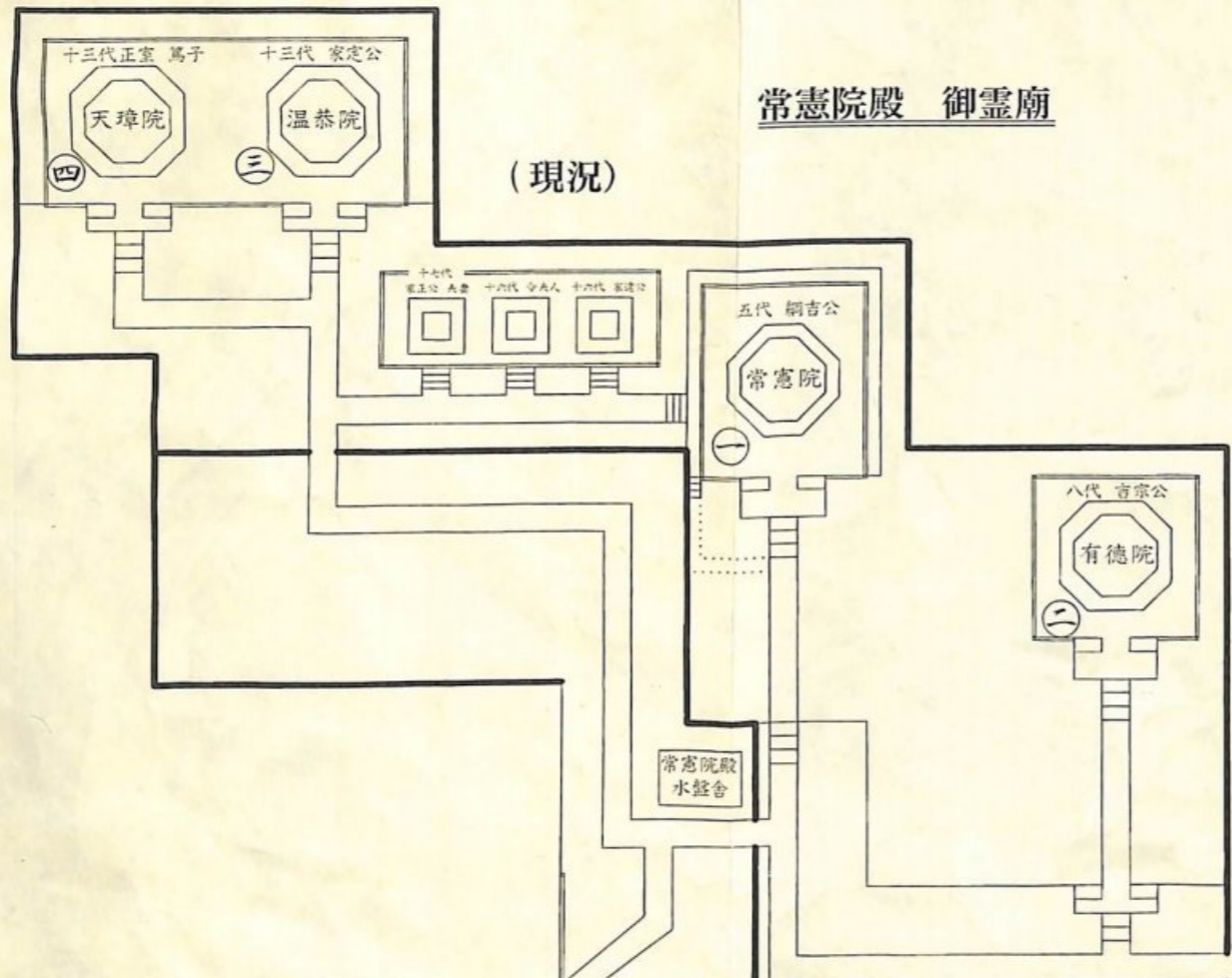
唐門の両脇には徳川御三家がそれぞれ2基づつ、寄進。

神事・法会を行う時に使う清めの火。照明用具ではない。

- 寛永5年(1628年) 1基 藤堂高虎奉納
- 慶安4年(1651年)正月17日、2基
- " " " 4月17日、45基 東照宮社殿又落慶日

以下省略

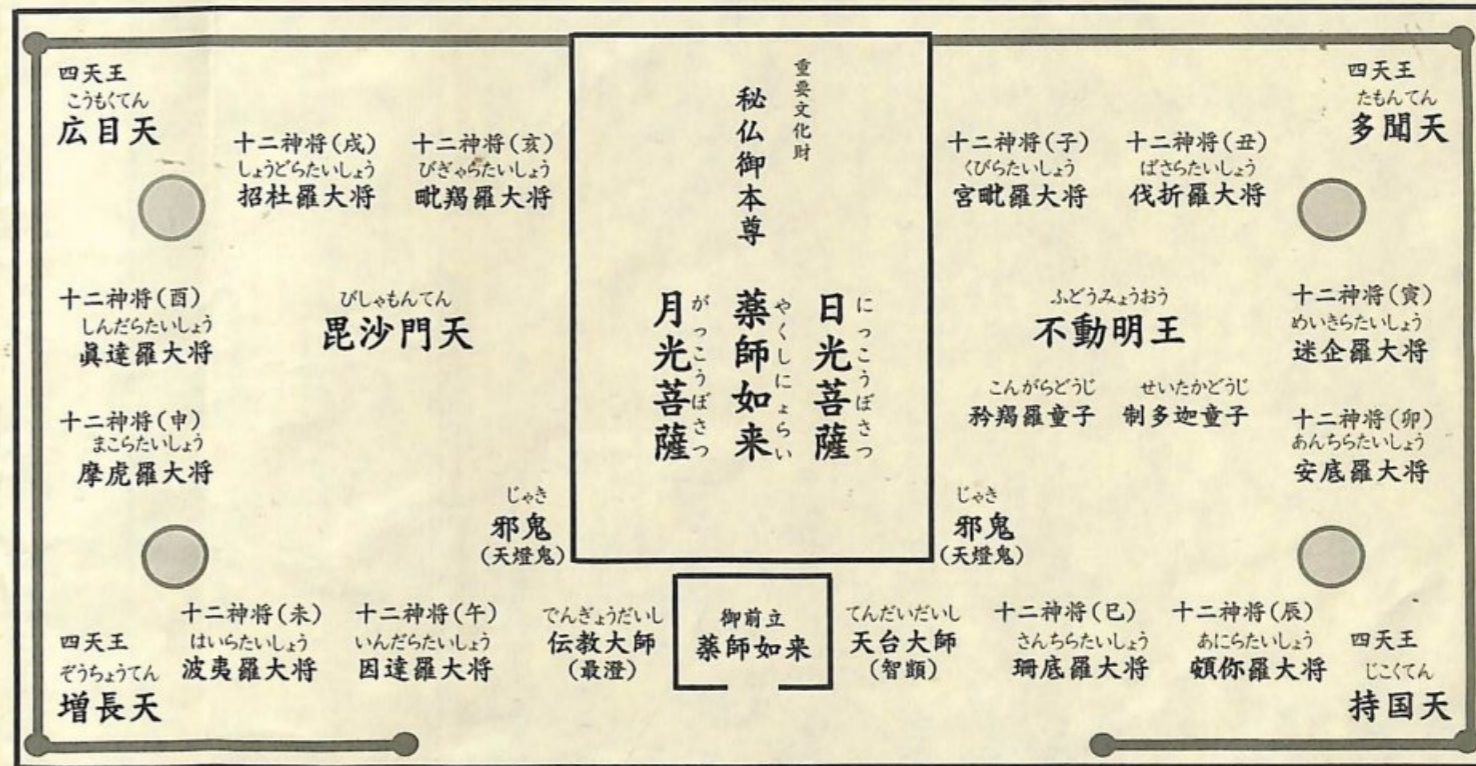
大出



(現況)

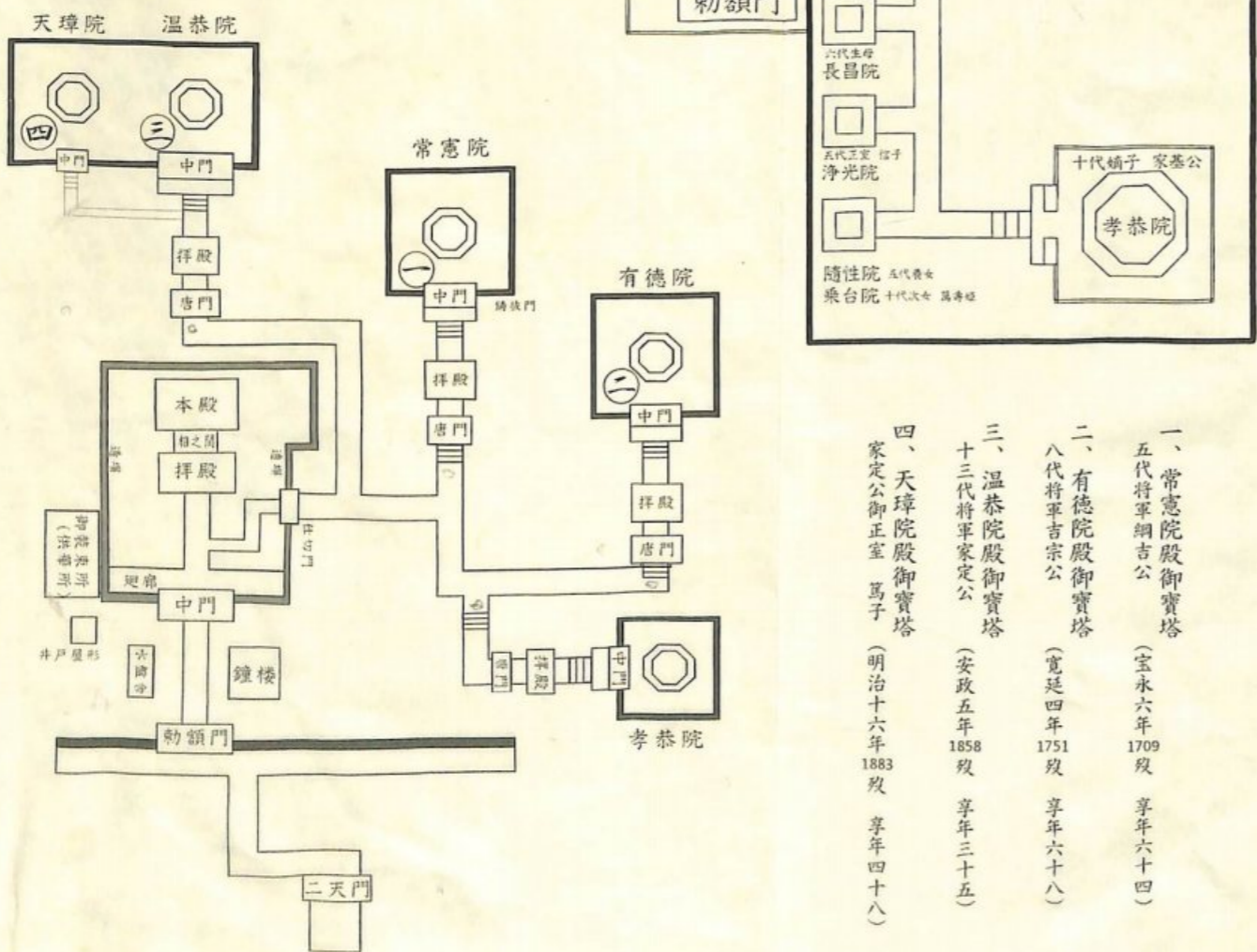
常憲院殿 御霊廟

根本中堂須弥壇之図



【国指定重要文化財】 薬師如来三尊像 3躯 平安時代
 【台東区登録文化財】 四天王像 4躯 江戸時代 元和6(1620)年

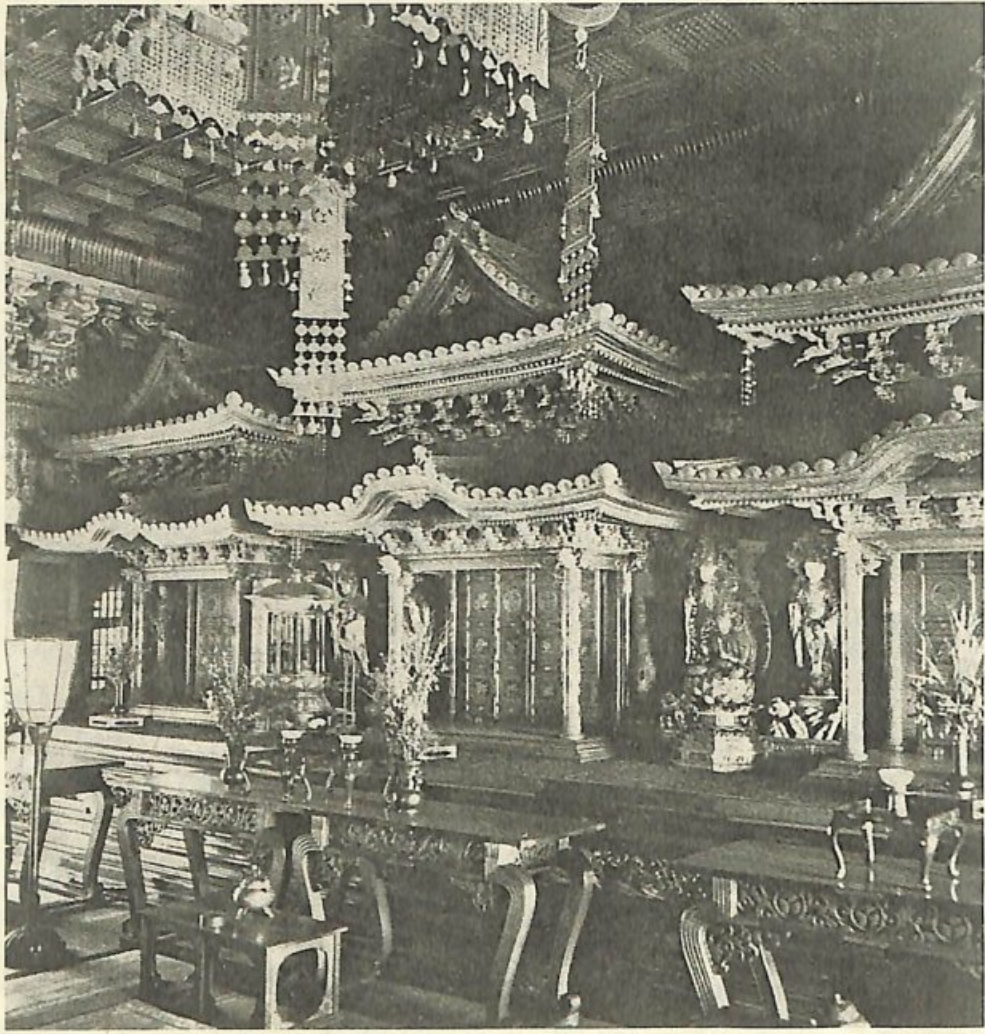
(江戸~明治期)



寛永寺史 略年表

西暦	年号	東叡山 寛永寺	参考事項
一五三六	天文五	開山天海誕生	
一六〇三	慶長八	寛永寺開創。本坊落成。「寛永寺圓頓院」の勅額を賜る。	家康江戸幕府を開く
一六一六	寛永二	此項、不忍池辯天堂建立	家康逝去
一六二七	寛永一三	法華堂、常行堂、仁王門、黒門、多宝塔、三十三観音堂、建立。	
一六三〇	寛永一六	五重塔、鐘樓、漆喰大仏、祇園堂、清水観音堂建立。	
一六三七	寛永一九	天海版一切経始刊。山王社建立。	
一六四三	寛永二五	天海、東叡山において入滅。公海、寛永寺に住して日光山を兼務す。	
一六四七	寛永二九	開山堂建立。	
一六四八	寛永三〇	守澄法親王入山。	
一六五二	寛永三四	天海に「慈眼大師」勅諡。天海版一切経完成。家光、寛永寺で葬送。	
一六五五	寛永三七	大猷院殿(家光)宣廟建立。	
一六五九	寛永四一	守澄法親王、公海の法席をつぎ日光・東叡・比叡の三山を管掌す。	
一六六二	寛永四四	守澄法親王、「輪王寺」門室号を賜る。	
一六六六	寛永四八	時の鐘初鋳。	
一六八〇	寛永五二	家綱を寛永寺に葬る。	
一六八二	寛永五四	了翁禪師(家綱)宣廟建立。	
一六八八	寛永六〇	根本中堂落成。「瑠璃殿」の勅額を賜る。	
一六九八	寛永七〇	文殊様建立。下寺通りを作る。	
一七〇九	寛永八一	立。吉宗を寛永寺に葬る。常憲院殿(綱吉)宣廟建立。	
一七五二	寛永八四	吉宗を寛永寺に葬る。	
一七八六	天明六	家治を寛永寺に葬る。	
一八四一	天保二	家斉を寛永寺に葬る。	
一八五八	安政五	家定を寛永寺に葬る。	
一八六七	慶応三	慶應、大猷院にて謹慎。(同年水戸へ下る)公現法親王、東叡山を立退く。同日兵火により根本中堂、本坊等、山内堂子の大半を焼失。	大政奉還 戊辰の役
一八七〇	明治三	東京府、寛永寺境内の神社関係建築物撤去を命ず。輪王寺門跡号廃止。	東京の神仏分離
一八七三	明治六	東叡山跡地、上野公園用地に指定。	
一八七九	明治一二	新根本中堂として川越喜多院の本地堂を移築再建。	
一八八五	明治一八	「輪王寺」門室号の復称許可。	
一九二二	大正一一	唐銅大仏震災で倒壊、解体される。	関東大震災
一九二四	大正一三	寛永寺幼推園創立。	
一九四五	昭和二〇	東京大空襲にて徳川家御霊廟、子院多数、不忍池辯天堂焼失。	太平洋戦争終結
一九五五	昭和三〇	不忍池辯天堂再建。	
一九六三	昭和三八	徳川家御霊廟再建。	
一九六六	昭和四一	上野大仏山パゴダ建立。	
一九八九	平成元	開山堂焼失、輪王殿創設。	

- 一、常憲院殿御寶塔 (宝永六年 1709 歿 享年六十四)
- 二、有徳院殿御寶塔 (寛延四年 1751 歿 享年六十八)
- 三、温恭院殿御寶塔 (安政五年 1858 歿 享年三十五)
- 四、天璋院殿御寶塔 (明治十六年 1883 歿 享年四十八)



御位牌所 本殿 (第二次大戦にて焼失)

東叡山寛永寺 特別参拝

参拝にあたってのお願い

- ・参拝時間や場所の制限 (撮影や立入禁止場所等) を遵守し、案内の者の指示に従ってください。
- ・仏像・宝塔をはじめ寺物及び展示物等には、手を触れないで下さい。
- ・堂内及び霊廟内での飲食・喫煙は禁止しています。また、同所では脱帽をお願いします。
- ・参拝中は携帯電話の電源を切るかマナーモードにして使用を控えて下さい。
- ・ゴミは各自にてお持ち帰り下さい。
- ・参拝順路には江戸時代に造成された参道等をご利用頂く部分が含まれます。歴史的建造物であることをご理解頂き、転倒等に十分にお気を付け下さい。

